社說

理窟のみを恃む可らず

人は多く情に依て動く者なり理窟を以て爭へば是非容易に決し難き事も人氣に乘ずれば容易く行はるゝと多し客觀家が時として大に錢を奮發して鬼の目にも涙を浮ぶるとあるは之が爲めなり即ち政治家が人望を取るに汲々たる所以にして如何なる敏腕も又如何なる雄辯も人氣に投ぜざれば施すに由なし年來政府が不如意を感じたるは何故なるか其云ふ所悉く不理窟のみに非ず其計畫また一切無用の事のみに非ず然るに議會が細々察々一錢一厘の論を爭ひ一に其運動を妨げたるは徒に錢を惜むに非ず其評判面白からざるが故に怒と反對して之を責めたるのみ今鄕紳會社は國庫の補助に依て成立するものにして其航路は內外を則はず概ね保護の下に立つものなり殆んど半官業を以て視る可きものなれば其世間の評判を重ずること亦官吏の如くならざる可らず獨立獨行敢て他人の世話に預らざるものならんには何事を爲すも勝手次第にして人言恐るゝに足らざれども國家の保護に生存を託する者は自から前後左右に注意するを肝要なり特に彼の八十八萬圓の補助も來る三十三年十月には滿期となり歐米航路の特別補助も次期の議會に再び請求する筈なる可ければ會社の運命に關する大問題は目前に横はる者と云ふ可し最も注意す可き時にして今より問題を誘發せしむ可き道理なしと云ふ可し

手せざる可らず運賃を以て爭へば双方ともに云ふ可きみと其だ多し乞驕にさへ會社ありと云へば況して斯る問題に付ては執れの側にも議論多きは勿論なり試に反對論の一端を云はんに彼の八十八萬圓の如きは多くは內地航路の補助費に充るものなり然るに內地の商業は近年著しく發達して航運業者の利益も少からず國庫の補助なしと雖も立派に成立つ可き筈なれば最早や斯る巨額の補助を要せず若しも補助なくんば立行かずとならば是れ只その腕前の足らざるに因るのみと云はんか自から一說として聞かざるを得ず又その外國航海に付て異說を持込み事の必要は則ち必要なれども國家の負担に於て容す可らず金入の四十分一以上を割て單に外國補助の一事に投ずるは所謂の例に照すも法外千萬なり絹布は肌に快しと雖も貧乏人は着るみとを得ず特に一會社に斯る恩典を與ひるは腐敗を招く源因たるのみなら他なるものなるのみならんか是亦無稽の說として一笑に附す可き筆に經濟のみを以て世を渡らんとする心得違と云ふ可し然らば之を如何す可きやと云ふに明治政府が年來人國にして事毎に民論の反對に遇ひ少しく情實の事を生じて無用不利の人を費ひ活潑潑地の氣を失ふて凡ての事自から萎縮なるとなり文明進歩の反對に當惑なる古風を再演して覺醒の先驅を嘆し益もなき事に深く國民の感情を害したるが故のみ我輩は特に鄕紳會社に情實の弊ありと云はず又[illegible]て大に[illegible]人の病癖を[illegible]起し[illegible]

[illegible]

[illegible]